

## はじめに

本シリーズ【大学受験ナビゲーション】は、大学入試合格を目指す皆さんのパートナーとしてその目的地へと導きます。

ここ数十年にわたって全国の大学入試問題を分析してみると、繰り返し出題された英語長文がかなりの数にのぼることがわかります。これらの頻出長文に共通する点は、内容が普遍的なもので、読者に訴えるものがあり、なおかつ受験生の英語力を測るための材料がたくさん含まれていることにあります。短い時間の中で、受験生の英語力をよりの確に判定することができる題材を出題者が求めた必然的な結果だと言えましょう。

さらに、これらの頻出長文と各大学が出題する設問内容を分析すると、そこに出题者共通の意図が見えてきます。つまり、入試で問われる内容はほぼ同じような箇所から選ばれているということなのです。特に英文和訳などでは問われる部分はほとんど決まっていると言っても過言ではありません。

それは、易しくても意外な意味を持つ単語や熟語、省略・倒置・強調・共通その他の重要構文が含まれる文であり、さらに重要なのは、典型的な5文型の例文を知っているだけではなかなか理解できないような複雑な構造をした文が設問の対象になるという点です。

以上の事情を考慮に入れ、本書では効果的な読解方法を身につけられるように次のように編集しました。

- ① 多くの頻出長文を素材とし、入試問題で問われることの多い重要構文を取り上げた。
- ② 「構造の複雑な文をどのように読みこなしていくか」というコンセプトで全体を110の項目に分け、Part 1 & 2に各々110の英文を収録した。
- ③ 2色刷の「解答解説編」では、和訳に加え、重要構文・文法事項・熟語等について解説し、また、英文の構造が目で見えてわかるよう図解した。
- ④ 英文解釈のテクニックをTIPとして示し、解説した。

本書は、一通り入試長文を読みこなしてきたがポイントの整理をしたいと考えている受験生、あるいは、これから入試長文に取り組もうとしている受験生のどちらにも最適な問題集であると自負しています。

本書と諸君との出会いが実り多いものであることを期待しています。

編 者

\*本書は弊社版『毎年出る 頻出 英文解釈』の改訂増補新版にあたります。

# Contents

	収録ページ
■ 重要な文型について	10
■ 句と節について	13
■ 英文解釈のための TIPS	14
(Part 1; Part 2)	
001. SV の発見 (前置詞句を取り除けば SV が浮き出る)	18; 74
002. SV の発見 (形に惑わされるな、主語についた長い to 不定詞)	18; 74
003. SV の発見 (主語に絡みついた分詞を取り除けば SV が浮き出る)	19; 74
004. SV の発見 (主語に絡みついた節が導く範囲は 2 番目の動詞の直前)	19; 74
005. 補語の発見 (補語が文頭に出ると倒置形になる)	20; 75
006. 目的語の発見 (目的語が文頭に出ても SV の倒置は起こらない)	20; 75
007. 目的語の発見 (離れた所にある直接目的語に注意しよう)	21; 75
008. 目的語の発見 (分離された目的語に注意しよう)	21; 75
009. 目的語の発見 (目的語を 2 つとる意外な動詞に注意しよう)	22; 76
010. 目的語と補語の発見 (see, hear, feel 以外の知覚動詞に注意しよう)	22; 76
011. 目的語と補語の発見 (使役動詞に注意しよう)	23; 76
012. 目的語と補語の発見 (to 不定詞は補語に)	23; 76
013. 目的語と補語の発見 (O と C の逆転に注意しよう)	24; 77
014. 修飾語の発見 (長い修飾語句に注意しよう)	24; 77
015. 省略構文 (省略部分は前方を見よう)	25; 77
016. 省略構文 (前の内容を受ける not と so に注意しよう)	25; 77
017. 省略構文 (副詞節中の〈S + be 動詞〉の省略に注意しよう)	26; 78
018. 省略構文 (代動詞 do の内容は前に出てくる動詞に求めよう)	26; 78
019. 省略構文 (代不定詞の内容は前方の動詞に求めよう)	27; 78
020. 挿入構文 (カッコ以外の挿入表現に注意しよう)	27; 78
021. 挿入構文 (慣用的な挿入構文 if not ~ に注意しよう)	28; 79
022. 無生物主語構文 (主語は副詞的に、目的語は主語として訳出しよう)	28; 79
023. 名詞構文 (〈所有格 + 名詞〉の部分に SV の関係を読みとろう)	29; 79
024. 名詞構文 (〈of + 抽象名詞〉に形容詞の意味を読みとろう)	29; 79
025. 共通構文 (並列した動詞や前置詞の目的語に注意しよう)	30; 80
026. 共通構文 (複数の動詞の共通した目的語に注意しよう)	30; 80
027. 強調構文 (It is ~ that の部分を省略しても完全な文)	31; 80
028. 強調構文 (強調構文 It is ~ that の応用表現に注意しよう)	31; 80
029. 同格表現 (文中のカンマ・コロン・ダッシュに注意しよう)	32; 81
030. 同格表現 (前置詞 of が同格を導く)	32; 81
031. 同格表現 (関係代名詞と働きの違う同格節を導く that に注意しよう)	33; 81
032. 関係詞構文 (文中の SV の前に目的格の関係代名詞 that を補おう)	33; 81
033. 関係詞構文 (先行詞はいつも関係詞の直前とは限らない)	34; 82
034. 関係詞構文 (関係詞の前にカンマがあれば前から後ろへと訳そう)	34; 82
035. 関係詞構文 (2 つの関係詞が 1 つの先行詞を限定)	35; 82
036. 関係詞構文 (先行詞の前についた that や those は訳出不要)	35; 83
037. 関係詞構文 (〈前置詞 + 関係代名詞〉は前置詞を文末に移そう)	36; 83
038. 関係詞構文 (what + S + is [was] は「今 [昔] の S」)	36; 83
039. 関係詞構文 (比例・割合関係を表す what と as)	37; 83
040. 関係詞構文 (関係副詞 that の用法もお忘れなく)	37; 84
041. 関係詞構文 (継続用法の as に注意しよう)	38; 84
042. 関係詞構文 (補語が先行詞に)	38; 84
043. 分詞構文 (being の省略された分詞構文に注意しよう)	39; 84
044. 分詞構文 (受動態の being も省略される)	39; 85
045. 分詞構文 (主語が主節の主語と異なる分詞構文に注意しよう)	40; 85
046. 分詞構文 (付帯状況の前置詞 with も分詞構文に)	40; 85
047. 分詞構文 (独立分詞構文の慣用句化したものに注意しよう)	41; 85
048. 動名詞構文 (読んで字のごとし、名詞の働きをする動名詞)	41; 86
049. 動名詞構文 (動名詞の意味上の主語は所有格か目的格で)	42; 86
050. 不定詞構文 (文頭の to 不定詞は、後に SV があれば条件か目的)	42; 86
051. 不定詞構文 (意味上の主語は〈for + O〉を直前に)	43; 86
052. 不定詞構文 (分離された不定詞に注意しよう)	43; 87
053. 不定詞構文 (形式主語の it の後がいつも be 動詞とは限らない)	44; 87
054. 不定詞構文 (〈be + to 不定詞〉の様々な用法に注意しよう)	44; 87
055. 不定詞構文 (目的で不自然ならば結果の意味にとろう)	45; 87
056. 不定詞構文 (to 不定詞の意味上の目的語は前方を探そう)	45; 88
057. 不定詞構文 (独立不定詞の慣用表現に注意しよう)	46; 88
058. 不定詞構文 (否定文中の too ~ to do ... 構文に注意しよう)	46; 88
059. 不定詞構文 (結果・程度を表す不定詞構文に注意しよう)	47; 88
060. 倒置構文 (否定の副詞が文頭に出たときの倒置に注意しよう)	47; 89
061. 倒置構文 (only も意味の上では否定の副詞)	48; 89
062. 倒置構文 (副詞句も文頭に出ると VS の倒置になることがある)	48; 89
063. 倒置構文 (so ~ that + SV 構文にも倒置形がある)	49; 89

064. 倒置構文（呼応の so, nor, neither も VS の倒置を伴う）	49; 90	099. 接続詞を含む構文（譲歩の as に注意しよう）	67; 98
065. 倒置構文（接続詞の as や than の後も VS の倒置が起こる）	50; 90	100. 接続詞を含む構文（直前の名詞を制限する as）	67; 98
066. 仮定法構文（仮定法は事実をふまえての仮定の意味）	50; 90	101. 接続詞を含む構文（It is true ~ but ... の変形に注意しよう）	68; 99
067. 仮定法構文（条件節に代わるものを探し出そう）	51; 90	102. 接続詞を含む構文（挿入の A or B は whether を補って考えよう）	68; 99
068. 仮定法構文（仮定法の倒置に注意しよう）	51; 90	103. 代名詞構文（Some ~ others ... には訳の工夫を）	69; 99
069. 仮定法構文（可能性ゼロから可能性ありの仮定法）	52; 91	104. 代名詞構文（it が後の節の内容を指す）	69; 99
070. 仮定法構文（特定の動詞に続く that 節中での原形動詞に注意しよう）	52; 91	105. 代名詞構文（後述の内容を表す this）	70; 100
071. 仮定法構文（otherwise は前文の内容を受けて訳そう）	53; 91	106. 代名詞構文（the former と the latter が示すものは？）	70; 100
072. 比較構文（no + 比較級 + than ~ の訳は as + 原級 + as ~ に）	53; 92	107. その他の構文（be + S ~ の譲歩構文）	71; 100
073. 比較構文（クジラの構文：no more ~ than）	54; 92	108. その他の構文（There is + S + 現在分詞 [過去分詞 など]）	71; 100
074. 比較構文（クジラの構文逆バージョン：no less ~ than）	54; 92	109. その他の構文（文修飾の副詞）	72; 101
075. 比較構文（(the + 比較級, the + 比較級）構文の変形に注意しよう）	55; 92	110. その他の構文（修辭疑問文）	72; 101
076. 比較構文（(all the + 比較級）の後には理由・条件を表すものを探そう）	55; 93		
077. 比較構文（less ~ than ... は「…ほど～ない」以外の意味もあり）	56; 93		
078. 比較構文（否定文中での比較級は最上級の意味に）	56; 93		
079. 比較構文（not so much A as B の変形に注意しよう）	57; 93		
080. 比較構文（最上級——直訳で不自然なら even を補おう）	57; 94		
081. 比較構文（as ~ as の後に数詞がきたら訳に工夫を）	58; 94		
082. 否定構文（否定語の no と not の違いを明らかにしよう）	58; 94		
083. 否定構文（(not と 100%を表す副詞）で部分否定になる）	59; 94		
084. 否定構文（否定文の後の but に注意しよう）	59; 95		
085. 否定構文（not only A but B の様々に変化した構文に注意しよう）	60; 95		
086. 否定構文（否定語 2 つで肯定の意味に）	60; 95		
087. 否定構文（more ~ than に否定の意味あり）	61; 95		
088. 否定構文（far from ~ も否定表現）	61; 96		
089. 否定構文（否定の意味を含む the last に注意しよう）	62; 96		
090. 否定構文（否定の意味を含む all + SV ~ の訳に注意しよう）	62; 96		
091. 接続詞を含む構文（形式主語）	63; 96		
092. 接続詞を含む構文（慣用句化したものをマークしよう）	63; 97		
093. 接続詞を含む構文（so と離れた that をマークしよう）	64; 97		
094. 接続詞を含む構文（such ~ that + SV の多様な用法をマークしよう）	64; 97		
095. 接続詞を含む構文（so that の後に助動詞がない？）	65; 97		
096. 接続詞を含む構文（接続詞 that に前置詞がつく）	65; 98		
097. 接続詞を含む構文（主語を導く接続詞の that）	66; 98		
098. 接続詞を含む構文（比較級とともに現れる as）	66; 98		

#### ■ NOTICE

- ① Part 1 と Part 2 で同一の問題番号の英文は、それぞれ共通の演習項目を含んでいます。
- ② ですから、Part 1 の 001 の問題を演習した後、Part 2 の 001 の問題に進んで理解度を試すことができます。その際、理解できていない点は解答解説編の解説で確認すると同時に Part 1 の問題編・解答解説編の同番号の解説を再読することで基本をチェックすることもできます。
- ③ 英文の左脇にある★印は難易度を示します。  
無印＝標準      ★＝やや難      ★★＝難
- ④ 英文中の ( ) は省略可能を、[ ] は直前の語句と交換可能であることを示します。
- ⑤ NOTES 中で語句の頭に \* 印のあるものは、入試問題中に語注としてあったことを示します。

## ■ 重要な文型について

5 文型を中心に、文の骨格となる様々な文型を例文と共に以下にまとめました。

### ■ S + V

My mother cooks very well. 「母はとても上手に料理をする」  
S V 修飾語

厳密に言えば My は修飾語ですが、本問題集では便宜上、My wife で主語として扱っています。very well は「とても上手に」の意味の副詞で、副詞は修飾語になります。

### ■ S + V + C

My mother is a very good cook. 「母はとても料理が上手だ」  
S V C

第2文型でのC(補語)は主語の説明をする語と考えてください(母=料理が上手だ)。a very good は厳密に言えば cook (料理する人) の修飾語ですが、全体で1つの補語として扱います。

My grandmother turned eighteen-nine. 「祖母は89歳になった」

### ■ S + V + (to be) C

This seems (to be) an important matter. 「これは重要な問題のようだ」

He seems to be enjoying the game. 「彼は試合を楽しんでいるようだ」

### ■ S + V + 分詞

He kept laughing in the room. 「彼は部屋で笑い続けていた」

I sat surrounded by my children. 「私は子供たちに囲まれて座っていた」

### ■ S + V + O

My mother cooks some ham and eggs for me. 「母は私にハムエッグを  
S V O 修飾語 作ってくれる」

動詞の動作の対象となる語がO(目的語)です。つまり、料理するものが目的語になります。前置詞句(前置詞+名詞)はbe動詞の後以外ではすべて修飾語となります。

cf. The cat is under the table. 「猫がテーブルの下にいる」  
S V C (be動詞の後の前置詞句は補語になります)

### ■ S + V + 動名詞

I enjoyed talking with you. 「あなたとお話しできて楽しかったです」

### ■ S + V + 不定詞

I want to learn music in France. 「私はフランスで音楽を勉強をしたい」

### ■ S + V + wh- 句

We couldn't decide what to do next. 「次に何をすべきか決められなかった」

### ■ S + V + that 節 [wh- 節]

I believe that he is honest. 「彼は正直だと信じています」

I wonder whether she got married. 「彼女は結婚したのかしら」

### ■ S + V + O + O

My mother cooks me some ham and eggs. 「母は私にハムエッグを作っ  
S V O O てる」

これは「O(人)にO(物)を~する」の意味で、普通、人を表す語を間接目的語、物を表す語を直接目的語と呼びます。

### ■ S + V + O + wh- 句

She advised me which to buy. 「彼女はどちらを買うべきか忠告してくれた」

### ■ S + V + O + that 節 [wh- 節]

She told me that he had arrived. 「彼女は私に彼が到着したと言った」

Have you told me when you'll return? 「いつ戻るのか教えてくださいましたか」

### ■ S + V + O + C

My mother cooked the meat well-done. 「母はその肉を十分火が通るよう  
S V O C に料理した」

第5文型での補語は目的語を説明する役割を担います(肉=十分火が通っている)。

### ■ S + V + O + 分詞

He kept me waiting for an hour. 「彼は私を1時間待たせた」

I heard my name called. 「私の名前が呼ばれるのが聞こえた」

I had my hair cut. 「髪の毛を切ってもらった」

## ■ S + V + O + 不定詞 [原形不定詞]

I want you to stay here. 「あなたにはここにいて欲しいのです」  
We made him do the work. 「私たちは彼にその仕事をやらせた」  
I felt the house shake. 「家が揺れるのを感じた」

## ■ S + be 動詞 + 動名詞

My hobby is collecting stamps. 「私の趣味は切手を集めることです」

## ■ S + be 動詞 + 不定詞

Our aim is to win the championship. 「私たちの目標は優勝することです」  
The president is to arrive at ten. 「社長は10時に到着する予定です」

## ■ S + be 動詞 + 形容詞 + 不定詞

I was surprised to hear the news. 「私はそのニュースを聞いて驚いた」  
He is sure to succeed. 「彼はきっと成功する」

## ■ S + be 動詞 + 形容詞 + that 節

We are sorry that you are sick. 「あなたが病気で残念です」

## ■ It + V + that 節 [wh- 節]

It seems that he is involved in that incident.  
「彼はその事件に関与しているようだ」  
It doesn't matter where you come from.  
「どこ出身かは大事なことではない」

## ■ It + V + 形容詞 + 不定詞

It seems useless to continue the job. 「この仕事を続けるのは無益に思える」

## ■ It is + 形容詞 [名詞] (+ for ~) + 不定詞

It's easy for me to do the job. 「私がこの仕事をするのは簡単だ」  
It is a mistake to do such a thing. 「そんなことをしたのは間違いだ」

## ■ It is + 形容詞 [名詞] + that 節 [wh- 節]

It's true that he bought a new car. 「彼が新しい車を買ったのは本当だ」  
It was a pity that you couldn't come. 「あなたか来れなくて残念でした」  
It's a mystery why he went there. 「なぜ彼がそこへ行ったのかは謎だ」

## ■ 句と節について

ある1つのまとまった意味を表す語の固まりを「句」または「節」と言います。このうち、**SV**を含むものを「節」、**SV**を含まないものを「句」と呼び、それぞれ働きにより、名詞・形容詞・副詞の3つの用法があります。

### ■ 名詞句：文の主語・目的語・補語になる

It's great fun *taking a walk in the woods*. (主語)  
「森の散歩はとても楽しい」

He forgot *to lock the door*. (目的語)

「彼はドアにかぎをかけるのを忘れてしまった」

His dream for the future is *to be a pilot*. (補語)

「彼の将来の夢はパイロットになることです」

### ■ 形容詞句：名詞を修飾する

Look at the white church *on the hill*.

「丘の上の白い教会を見てごらん」

### ■ 副詞句：動詞・形容詞・副詞・文全体を修飾する

She went to Italy *in order to study music*.

「彼女は音楽の勉強のためにイタリアに行った」

### ■ 名詞節：文の主語・目的語・補語になる

*What he said* was true. (主語)

「彼の言ったことは本当だった」

They didn't believe *that the earth is round*. (目的語)

「彼らは地球が丸いことを信じなかった」

The result is *that he failed the exam*. (補語)

「その結果、彼は試験に落ちた」

### ■ 形容詞節：名詞を修飾する (関係詞が導く節)

He has a daughter *whose name is Alice*.

「彼にはアリスという名前の娘が1人いる」

### ■ 副詞節：動詞や文全体を修飾する

*Though he was very tired*, he continued to run.

「彼は疲れていたが走り続けた」

1. 修飾語句を取り除けば SV の形がハッキリする。(10)
2. the time when + SV ~ が be 動詞の後で補語になる時, the time はしばしば省略されることがある。(11)
3. 分詞が形容詞として名詞を修飾する際, 冠詞を除いて 1 語の時はその名詞の前に, 2 語以上の時はその名詞の後にくる。(12)
4. 主語に絡みついた関係詞節や同格節の勢力範囲は 2 番目の動詞の前まで及ぶ。(13)
5. C が文頭に出ると CVS の倒置形になる。(14)
6. 目的語が文頭に出ても SV の倒置は起こらず, OSV の語順になる。(15)
7. 比較的長く複雑な要素は文末に置いて安定感を持たせる「文末重点の原則」がある。(17)
8. save, cost, spare の目的語が人の時は, 後ろに直接目的語を探す。(18)
9. SVOC の文では, O と C は〈主語と述語の関係〉にある。(19)
10. SVOC の第 5 文型では, 文末重点の原則により, O と C が逆転して SVCO の語順になることがある。(22)
11. 複数の語を伴う形容詞が名詞を修飾する時はその名詞の後にくる。(23)
12. 省略された語句は前方にある。(24)
13. 動詞の強調形は助動詞の do (人称や時制に応じて, does, did に変化) を用いる。(24)
14. 主語が主節の主語と同じ時, 副詞節の〈S + be 動詞〉は省略できる。(26)
15. 代動詞 do のもとの動詞は同一文の前半か前文にある。(27)
16. 同じ動作が繰り返され, 2 度目に出てくる動詞に to がある時, その動詞を省略して to だけで表す (代不定詞)。(28)
17. 前後にカンマやダッシュがあれば挿入。(29)
18. 無生物主語構文では, 主語は副詞的に, 目的語は主語のように訳出。(31)
19. 名詞中心の構文では, もとの動詞や形容詞に戻して「～が…する」という SV 関係や「～を…する」という VO 関係を読みとり訳出する。(32)
20. 〈of + 抽象名詞〉は形容詞の意味になる。(33)
21. A・B・C・D を並べる時, 最後の D の前に and や or を入れる。(34)
22. It is [was] ~ that ... を消去して文が成立すれば強調構文, 成立しなければ形式主語構文になる。(36)
23. 同格はカンマ・コロンのダッシュや前置詞の of でも表せる。(38; 39)
24. 同格の that 節では節の中は完全な文。(40)
25. 文の途中で接続詞もなくいきなり SV がきたら目的格の関係代名詞の that を補

う。(41)

26. 先行詞は必ずしも関係詞の直前にあるとは限らない。(42)
27. 関係詞の前にカンマがあったら適当な接続詞を補い, 前から後ろへ訳す。(43)
28. 関係代名詞の先行詞につく that や those は訳出不要。(45)
29. 制限用法における〈前置詞 + 関係代名詞〉では, 先行詞と前置詞を文末に移して訳を考える。(46)
30. what + S + be 動詞では, be 動詞が現在形なら「今の S」, 過去形なら「昔の S」と訳す。(47)
31.  $A : B = C : D$  (A と B の関係と C と D の関係が等しい) ならば  $A$  is  $B$  what  $C$  is to  $D$ . の公式を使う。(48)
32. 〈前置詞 + 関係代名詞 + to 不定詞〉は to 不定詞の形容詞用法と同じように訳す。(48)
33. 関係代名詞節中の補語となる語が先行詞の場合, 関係代名詞は that だが, これはしばしば省略される。(51)
34. 分詞構文の意味は現代英語では理由か付帯状況のみ。(52)
35. 付帯状況の with + O + C では, O と C は〈主語と述語の関係〉。(55)
36. 動名詞の意味上の主語は所有格か目的格で表す。(58)
37. 文頭の to 不定詞の後に SV があれば目的か条件を表す。(59)
38. to 不定詞の意味上の主語を表したい時は, to 不定詞の直前に〈for + 目的格の名詞〉を置く。(60)
39. 形容詞用法の to 不定詞は通常名詞の後に置かれるが, 修飾語が入ったり, 文末重点の原則により, 名詞と不定詞が分離されることがある。(61)
40. be + to 不定詞は場合により, will, can, must の意味になる。(63)
41. to 不定詞の目的語が文頭に出て主語になることがある。(65)
42. 否定語が文頭に出ると倒置形になる。(69)
43. only が文頭に出ると倒置形になる。(70)
44. 場所を表す副詞句が文頭に出ると倒置形になることがある。(71)
45. so ~ that + SV 構文の so が文頭に出ると倒置形になる。(72)
46. 呼応の副詞 so や nor [neither] が文頭に出ると倒置形になる。(73)
47. 接続詞 as や than の後では文末重点の原則により倒置形になることがある。(74)
48. if 節がない仮定法は, 主語・副詞句・to 不定詞などに条件の意味を込めて訳す。(76)
49. Were + S ~ , Had + S + 過去分詞 ~ の形が出たら仮定法倒置と疑う。(77)
50. otherwise は仮定法で使われると「もしそうでなかったら」の意味になる。(80)
51. no + 比較級 + than ~ は, as + その比較級と反対の意味の原級 + as ~ に書

★ 001. SV の発見 (前置詞句を取り除けば SV が浮き出る)

① The advancement of the black man in the United States, from the position of slave to that of proud and equal citizen, has been slow. ② The black man's hopes have often ended in despair.

(神奈川大)

■ 会話文を除けば、英語の文には主語(S)+述語動詞(V)の形が必ず存在します。これに目的語(O)や補語(C)や様々な形の修飾語がつき、文の構造をわかりにくくしています。しかし、一見複雑そうな文も、文の骨格にはならない前置詞句を取り除くことで、文全体の構造が見えてきます。

★ 002. SV の発見 (形に惑わされるな、主語についた長い to 不定詞)

① Government attempts to keep former secret agents from publishing secrets they once promised to keep have been notoriously unsuccessful. ② One of the best-known recent examples was when the *New York Times and Washington Post* published the so-called "Pentagon Papers."

(北九州市立大)

■ 主語に to 不定詞がついたために、文の構造が非常にわかりにくい場合があります。to 不定詞が前の名詞を修飾する形容詞用法なのか、動詞を修飾する副詞用法(理由・目的・結果)なのか、あるいは動詞の目的語になる名詞用法なのか、などを見極めることが重要です。

NOTES

001.  advancement : 進歩, 向上  slave : 奴隷  equal : 平等の  citizen : 市民  end in ~ : ~に終わる  despair : 絶望
002.  government : 政府  attempt : 試み  keep + O + from doing ~ : Oが~することを妨げる  former : 前の, かつての  secret agent : 秘密諜報部員  publish : 公表する  promise : 約束する  notoriously : 悪名高く  recent : 最近の  so-called : いわゆる

★ 003. SV の発見 (主語に絡みついた分詞を取り除けば SV が浮き出る)

① A study from Nigeria published last year found 64% of students believed that wearing glasses can damage eyes. ② Research in the Indian state of Karnataka put the figure at 30%, and in Pakistan 69% of people feel the same way. ③ In Brazil, even medical staff believed that your eyes would gradually get weaker as a consequence of wearing glasses.

(兵庫県立大)

■ 主語の部分に過去分詞がつくことにより、文の構造が見えにくい場合があります。一般に現在分詞や過去分詞が形容詞として名詞を修飾する際に、冠詞を除いて1語のときはその名詞の前に、2語以上のときはその名詞の後に置くという規則があります。

★★ 004. SV の発見 (主語に絡みついた節が導く範囲は2番目の動詞の直前)

One of the articles that captured my attention on the site last week was a feature that examined whether or not some of the popular myths we have all heard enough times to assume they are probably true actually hold up under the harsh light for scientific investigation.

(広島大)

■ 主語に関係代名詞節や同格節が絡みつくと、どの動詞がV(述語動詞)なのか迷うことがあります。その答えは、2番目に現れる動詞と覚えておきましょう(ただし、その関係代名詞や同格節のandやbutなどの等位接続詞で結ばれた動詞や従属節の中の動詞は数えません)。

NOTES

003.  medical staff : 医療従事者  gradually : 徐々に  consequence : 結果
004.  article : 記事  capture : 捕まえる  feature : 特集  myth : 説  assume : 思いこむ  actually : 実際  hold up : 事実であることがわかる  harsh : 厳しい  investigation : 調査

**001.** As we survey the whole course of man's development from the earliest times to the present and from the most primitive and simple to the most complex ways of living, we are strongly impressed by the fact that whenever men have lived together there has been some group interest in education. (玉川大)

**002.** Various behavior patterns may seem not only queer but wrong or unnatural. Any effort to find out why people behave in these seemingly queer ways rarely brings a satisfactory answer. People usually do not know why they act as they do except that they have always done it that way. (関西学院大)

☐ **queer** : 奇妙な ☐ **seemingly** : --見

**003.** We owe a lot to the birds and beasts who eat insects, but all of them put together kill a fraction of the number destroyed by spiders. Moreover, unlike some of the other insect eaters, spiders never do the least harm to us or our belongings.

(早稲田大, 日本女子大, 玉川大, 千葉工業大, 関西学院大)

☐ **owe A to B** : AはBのおかげである ☐ **put ~ together** : ~をまとめる  
☐ **fraction** : 一部 ☐ **do harm to ~** : ~に害を与える

**004.** The issue that Americans are overlooking when they overlook the elderly is that everyone gets old. Old age is just another, equally important stage of life. By shutting the elderly out of our lives, we are refusing to learn from their experiences, refusing to learn about ourselves. (香川大)

☐ **issue** : 問題 ☐ **overlook** : ④見る, 見落とす

**005.** The traditional physical exercises all Japanese workers perform at the beginning of the day and at intervals throughout their work periods are certainly a help in relieving the aches and pains and emotional frustrations of office life. But even more important is the ability to adapt: the younger you are, the easier it is to do these things.

(東洋大, 近畿大, 桃山学院大)

☐ **physical exercise** : 体操 ☐ **at intervals** : ときどき ☐ **ache** : (長く続く鈍い) 痛み ☐ **pain** : (鋭い) 痛み

**006.** All that you know about the world we live in you have learned in one of the two ways. Some of the information, of course, you got through firsthand experience. The camping trips you went on as a child, for example, might have taught you that certain plants are poisonous, and that damp firewood does not burn easily. (宇都宮大)

☐ **firsthand** : 直接的な ☐ **certain** : ある ☐ **damp** : 湿った

**007.** Nowadays there seem to be very few things that cannot be made by the 'do-it-yourself' method. A number of magazines and handbooks exist to show hopeful handymen of all ages just how easy it is to build anything from a coffee table to a fifteen-foot sailing boat. All you need, it seems, is a hammer and a few nails.

(福島大, 電気通信大, 兵庫県立大, 早稲田大, 関西大 他)

☐ **do-it-yourself method** : 日曜大工 ☐ **handyman** : 器用な人

**008.** Let children learn to judge their own work. A child learning to talk does not learn by being corrected all the time; if corrected too much, he will stop talking. He notices a thousand times a day the difference between the language he uses and the language those around him use.

(香川大, 創価大, 東海大, 昭和大)

☐ **learn to do ~** : ~するようになる ☐ **correct** : ④訂正する